

# 【SigmaSystemCenter 3.3, u1】SigmaSystemCenterのインストール、アップグレード、およびアンインストールに関する注意事項、トラブルシューティング

SigmaSystemCenter 3.3のインストール時、およびアップグレード時の注意事項や、SigmaSystemCenter 3.3のインストール、アップグレードインストール中に問題が起こった際の対処方法について説明します。

以下の項目について、説明します。

- SigmaSystemCenterが使用するSQL Server 2012インスタンスを手動でインストールする場合の注意事項
- セキュリティレベルが異なる複数のネットワークに接続する管理サーバでインストールする場合の注意事項
- CLUSTERPRO MC ProcessSaverがインストールされている環境でSigmaSystemCenterのアップグレード中にSystemProvisioningのエラーが発生する
- CLUSTERPRO MC ProcessSaverがインストールされている環境でアップグレードインストールを行う場合の注意事項
- CLUSTERPRO MC ProcessSaverがインストールされている環境でアンインストールを行う場合の注意事項
- インストール時と異なるユーザでログインしている場合の注意事項
- SigmaSystemCenterをアップグレードインストールする際の、SystemProvisioningのレジストリに関する注意事項

また、【参考情報】に記載されていますインストレーションガイドの「5. トラブルシューティング」の説明も参照してください。

## 1. SigmaSystemCenterが使用するSQL Server 2012インスタンスを手動でインストールする場合の注意事項

[バージョン]

SSC3.3, SSC3.3u1

[注意事項]

SigmaSystemCenterが使用するSQL Server 2012のインスタンスを事前に手動でインストールする場合は、SQL Server 2012のインストール中の「データベースエンジンの構成」画面のSQL Server 管理者の指定に"NT AUTHORITY\SYSTEM(SYSTEM)" を追加する必要があります。

手順については、「SigmaSystemCenter 3.3 インストレーションガイド」の「2.1.11. SQL Server 2012 Express以外のSQL Serverを使用する場合」を参照してください。

[上記を実施しなかった場合の影響と対処方法]

- 現象: インストール済みのSQL Server 2012のインスタンスを指定してSigmaSystemCenterをインストールすると、インストール後に以下のサービスが開始できません。

- PVMService
- System Monitor Performance Monitoring Service
- DeploymentManager API Service
- DeploymentManager Schedule Management
- 原因: サービス開始時のSQL Serverへの接続で権限不足のためエラーになります。  
手動でSQL Server 2012のインスタンスをインストールした際に、"NT AUTHORITY\SYSTEM(SYSTEM)"が追加されなかった場合に発生します。
- 対処方法: コマンドプロンプトで以下のそれぞれのコマンドを実行してください。  
その後、開始できなかったサービスを開始してください。

```
sqlcmd -E -S (local)\SSCCMDB
1> ALTER SERVER ROLE [sysadmin] ADD MEMBER [NT AUTHORITY\SYSTEM]
2> go
```

```
sqlcmd -E -S (local)\DPMDBI
1> ALTER SERVER ROLE [sysadmin] ADD MEMBER [NT AUTHORITY\SYSTEM]
2> go
```

## 2. セキュリティレベルが異なる複数のネットワークに接続する管理サーバでインストールする場合の注意事項

[バージョン]

SSC3.3, SSC3.3u1

[現象]

セキュリティレベルが異なる複数のネットワークに接続する管理サーバでインストールを実行した時、各製品の受信規則がWindowsファイアウォールの有効な全てのプロファイルに適用されない問題が発生します。問題が発生する条件は以下の通りです。

- 管理サーバにWindows Server 2008 R2以降を使用している。
- 管理サーバのWindowsファイアウォールの設定では、「パブリック」、「プライベート」、「ドメイン」のプロファイルのうち2つ以上が有効になっている。
- SigmaSystemCenterインストーラの「Windowsファイアウォールの指定」画面で、Windowsファイアウォールの例外リストにプログラム、またはポートを追加する設定でインストールを実行した場合。

問題が発生すると、Windowsファイアウォールの「パブリック」、「プライベート」、「ドメイン」の中の有効なプロファイルのうち、より制約の多いプロファイルに受信規則が適用されます。制約の多い順序は、「パブリック」、「プライベート」、「ドメイン」です。例えば、ドメインネットワークとパブリックネットワークがある場合はパブリックプロファイルのみに適用されます。

有効な全てのプロファイルに適用されないWindowsファイアウォールの規則は、以下の受信規則です。DeploymentManagerの受信規則については、問題は発生しません。

### SSC3.3の場合

- SystemProvisioning
  - SystemProvisioning (UDP)
  - SystemProvisioning (TCP)
  - SystemProvisioning File Transfer Service (TCP)
  - SystemProvisioning Web API Service (TCP)
  - SNMP Trap Service (UDP) (\*)
  - SNMP Trap Service (TCP) (\*)

(\*)新規インストール時のみ登録されます。

- SystemMonitor性能監視
  - SystemMonitor性能監視 (UDP)
  - SystemMonitor性能監視 (TCP)
- ESMPRO/ServerManager
  - Alert Manager HTTPS Service (UDP)
  - Alert Manager HTTPS Service (TCP)
  - Alert Manager Socket(R) Service (UDP)
  - Alert Manager Socket(R) Service (TCP)
  - ESM Base Service (UDP)
  - ESM Base Service (TCP)
  - ESMPRO/SM Common Component (UDP)
  - ESMPRO/SM Common Component (TCP)
  - ESMPRO/SM Event Manager (UDP)
  - ESMPRO/SM Event Manager (TCP)
  - ESMPRO/SM Web Container (UDP)
  - ESMPRO/SM Web Container (TCP)
  - SNMP Trap Service (UDP) (\*)
  - SNMP Trap Service (TCP) (\*)

(\*)新規インストール時のみ登録されます。

### SSC3.3u1の場合

- SystemProvisioning
  - SNMP Trap Service (UDP) (\*)
  - SNMP Trap Service (TCP) (\*)

(\*)新規インストール時のみ登録されます。

- ESMPRO/ServerManager
  - Alert Manager HTTPS Service (UDP)
  - Alert Manager HTTPS Service (TCP)
  - Alert Manager Socket(R) Service (UDP)
  - Alert Manager Socket(R) Service (TCP)
  - ESM Base Service (UDP)
  - ESM Base Service (TCP)
  - ESMPRO/SM Common Component (UDP)
  - ESMPRO/SM Common Component (TCP)
  - ESMPRO/SM Event Manager (UDP)
  - ESMPRO/SM Event Manager (TCP)
  - ESMPRO/SM Web Container (UDP)
  - ESMPRO/SM Web Container (TCP)
  - SNMP Trap Service (UDP) (\*)
  - SNMP Trap Service (TCP) (\*)

(\*)新規インストール時のみ登録されます。

### [対処方法]

以下の手順で、必要なプロファイルに受信規則を適用してください。

1. 管理サーバの[管理ツール] - [セキュリティが強化されたWindowsファイアウォール] から「セキュリティが強化されたWindowsファイアウォール」画面を起動します。
2. 左ペインの[受信の規則] をクリックします。
3. [受信の規則] のリストで上記の受信規則を選択して、右クリックで[プロパティ] を選択します。「プロパティ」画面の[詳細設定] タブを選択します。適用するプロファイル ([ドメイン]、[パブリック]、[プライベート] のいずれか) のチェックボックスをオンに設定し、[OK] をクリックします。

上記の「SNMP Trap Service」については、新規インストール時のみですが、OSの「SNMP Trap」サービスの使用有無に応じて設定してください。

### 3. CLUSTERPRO MC ProcessSaverがインストールされている環境でSigmaSystemCenterのアップグレード中にSystemProvisioningのエラーが発生する

[バージョン]

SSC3.3

[現象]

管理サーバに以下の製品がインストールされている場合、SystemProvisioningのアップグレードインストールをすると、下記メッセージが表示され、アップグレードインストールが失敗します。

- CLUSTERPRO MC ProcessSaver 1.0 ~ 1.1

[メッセージ]

インストールに失敗しました。: SystemProvisioning x.x  
SystemProvisioningのインストールに失敗しました。  
エラーコード: 8000

[原因]

CLUSTERPRO MC ProcessSaver 1.0 ~ 1.1がインストールされている管理サーバで、SystemProvisioningをアップグレードすると、処理中に行われる旧バージョンのSystemProvisioningのアンインストールにてレジストリキーが削除されません。そのため、SystemProvisioningインストーラはアンインストールに失敗したと判断して、アップグレード処理を中断します。

本現象は、下記の2つの製品のインストーラが使用するGUIDが重複していることが原因で発生します。

- SigmaSystemCenter 2.0 ~ 3.3 の SystemProvisioning
- CLUSTERPRO MC ProcessSaver 1.0 ~ 1.1

2つの製品が共存している場合、SystemProvisioningをアンインストールすると、GUIDが重複していることが影響して、以下のレジストリキー、およびサービスが削除されません。

- レジストリキー
  - HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM
  - HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\AlertReport\SystemProvisioning(Japan)
  - HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\services\eventlog\Application\PVM
  - HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\services\eventlog\Application\PVMService
  - HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\services\PVMService

- サービス
  - PVMService

#### [対処方法]

対処方法の流れは以下の通りです。

1. 削除されていないレジストリキーを削除する。
2. 管理サーバに、アップグレード前のSystemProvisioningを再インストールする。
3. アップグレード前にバックアップしたデータをリストアする。
4. 製品インストーラのGUIDの情報が登録されたレジストリを操作(削除)する。
5. SystemProvisioningをアップグレードインストールする。
6. 製品インストーラのGUIDの情報が登録されたレジストリを操作(復旧)する。

具体的な手順については、[情報採取]で情報を採取した上で、製品サポート窓口にお問い合わせください。

#### [情報採取]

1. レジストリエディタを起動し、以下のレジストリキーをエクスポートしてください。
- HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Installer
  - HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Uninstall
  - HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM

## 4. CLUSTERPRO MC ProcessSaverがインストールされている環境でアップグレードインストールを行う場合の注意事項

#### [バージョン]

SSC3.3, SSC3.3u1

#### [注意事項]

管理サーバに以下の製品がインストールされている場合、SystemProvisioningのアップグレードインストールをすると、アップグレードインストールが失敗します。

- CLUSTERPRO MC ProcessSaver 1.0 ~ 1.1

この場合、以下の流れでアップグレードインストールを実施する必要があります。

1. 製品インストーラのGUIDの情報が登録されたレジストリを操作(削除)する。
2. SystemProvisioningをアップグレードインストールする。
3. 製品インストーラのGUIDの情報が登録されたレジストリを操作(復旧)する。

具体的な手順については、アップグレードインストールを実施する前に、[情報採取]で情報を採取した上で、製品サポート窓口にお問い合わせください。

#### [情報採取]

1. レジストリエディタを起動し、以下のレジストリキーをエクスポートしてください。
- HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Installer
  - HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Uninstall
  - HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM

## 5. CLUSTERPRO MC ProcessSaverがインストールされている環境でアンインストールを行う場合の注意事項

[バージョン]

SSC3.3, SSC3.3u1

[注意事項]

管理サーバに以下の製品がインストールされている場合、SystemProvisioningをアンインストールすると、SystemProvisioningのレジストリキー、およびサービスが削除されません。

- CLUSTERPRO MC ProcessSaver 1.0 ~ 1.1

SystemProvisioningをアンインストールした後、SystemProvisioningのレジストリキー、およびサービスを手動で削除してください。

[レジストリキー、およびサービスの削除方法]

SystemProvisioningをアンインストールした後、SystemProvisioningのレジストリキー、およびサービスを削除するため、以下の手順を実施してください。

1. レジストリエディタを起動して、以下のレジストリキーを削除します。

- HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM
- HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\AlertReport\SystemProvisioning(Japan)
- HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\services\eventlog\Application\PVM
- HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\services\eventlog\Application\PVMService
- HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\services\PVMService

2. 管理サーバを再起動します。

## 6. インストール時と異なるユーザでログインしている場合の注意事項

[バージョン]

SSC3.3, SSC3.3u1

[注意事項]

下記のコンポーネントをアップグレードインストールする場合、SigmaSystemCenterをインストールしたときと異なるユーザでログインして、アップグレードインストールを行うと、正しくアップグレードができない場合があります。

- DPM サーバ
- SystemMonitor 性能監視
- SystemProvisioning

以下のどちらかの対処方法を実施してください。

[対処方法1]

SigmaSystemCenterをインストールしたときと同じユーザでログインして、アップグレードインストールを実施してください。

## [対処方法2]

アップグレードインストールを実施する前にアクセス権を設定して、データベースにログイン可能にしてください。

- 実行権限確認方法

下記コマンドで、ログインユーザが表示されるか確認してください。

```
sqlcmd -E -S .%SSCCMDB
1> select name from sys.syslogins
2> go
```

```
sqlcmd -E -S .%DPMDBI
1> select name from sys.syslogins
2> go
```

- 実行権限設定方法

ログインユーザが含まれていない場合は、下記の手順で追加してください。

- <SSCCMDB の場合>

- SQL Server が、SQL Server 2012、SQL Server 2014 の場合  
SQL Server インスタンスをインストールしたユーザアカウントでログインし、下記のコマンドを実行してください。

```
sqlcmd -E -S (local)%SSCCMDB
1> CREATE LOGIN [SSC管理サーバ名%ユーザ名] FROM WINDOWS
2> GO
1> ALTER SERVER ROLE [sysadmin] ADD MEMBER [SSC管理サーバ名%ユーザ名]
2> GO
```

- SQL Server が、SQL Server 2008 R2 以前の場合

下記のコマンドを実行してください。

```
sqlcmd -E -S (local)%SSCCMDB
1> exec master..sp_addsrvrolemember @loginame = N'SSC管理サーバ名%ユーザ名',
    @rolename = N'sysadmin'
2> GO
```

- <DPMDBI の場合>

- SQL Server が、SQL Server 2012、SQL Server 2014 の場合  
SQL Server インスタンスをインストールしたユーザアカウントでログインし、下記のコマンドを実行してください。

```
sqlcmd -E -S (local)%DPMDBI
1> CREATE LOGIN [SSC管理サーバ名%ユーザ名] FROM WINDOWS
2> GO
1> ALTER SERVER ROLE [sysadmin] ADD MEMBER [SSC管理サーバ名%ユーザ名]
2> GO
```

- SQL Server が、SQL Server 2008 R2 以前の場合

下記のコマンドを実行してください。

```
sqlcmd -E -S (local)%DPMDBI
1> exec master..sp_addsrvrolemember @loginame = N'SSC管理サーバ名%ユーザ名',
    @rolename = N'sysadmin'
2> GO
```

## 7. SigmaSystemCenterをアップグレードインストールする際の、SystemProvisioningのレジストリに関する注意事項

### 7.1. SigmaSystemCenterをアップグレードインストールすると、SystemProvisioningのレジストリが削除される

## [バージョン]

SSC3.3, SSC3.3u1

## [注意事項]

SigmaSystemCenter をアップグレードすると、SystemProvisioningが使用する以下のレジストリのデータが削除されます。

そのため、アップグレードする前に設定していたデータを、アップグレード後に再設定する必要があります。

本注意事項の対象となるのは、アップグレード前に、以下のレジストリのデータを手動で追加していた場合のみです。

レジストリを追加していない場合は問題は発生しないため、対処は不要です。

- キー: HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM\HyperV (\*)
  - 名前: EnableVMOffEvent
  - 名前: FreeSpaceThreshold
  - 名前: DiskUsageThreshold
  - 名前: DisableDiskUsageMonitor
  - 名前: MigrateTimeout
- キー: HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\DPMPProvider (\*)
  - 名前: DelimiterWwn
- キー: HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM\VMware (\*)
  - 名前: EnableIPSetting
  - 名前: SysprepWaitCount
  - 名前: CreateReplicaTimeout
  - 名前: BeforeForcePowerOffTimeout
  - 名前: DisableVMServerTimeout
  - 名前: EnableCheckPowerStatus
  - 名前: EnableDefaultVmPortgroup
  - 名前: IgnoreIpWaitTimeout
  - 名前: IpSettingGuestWatchTimeout
  - 名前: SysprepWaitDHCPTimeout
  - 名前: SysprepWaitFixedIPTimeout
  - 名前: VmPowerOffTimeout
  - 名前: VmShutdownTimeout
  - 名前: WaitAfterReboot
  - 名前: WaitBeforePowerOnTask
  - 名前: WaitForRetryPowerOn

(\*) 32bit OSの場合は"\Wow6432Node"の部分を除外してください。

## [対処方法]

レジストリエディタを起動し、アップグレードする前に設定していたデータを再設定してください。

手順は以下の通りです。

- クラスタ環境でない場合

### 1. レジストリデータの再設定



レジストリエディタを起動し、アップグレードする前に設定していたデータを再設定してください。

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で「サービス」画面を表示し、以下のサービスを停止します。

PVMService

2. レジストリエディタを起動し、レジストリを追加します。

例えば、アップグレードする前に、以下のレジストリにデータを設定していた場合、名前「EnableVMOffEvent」を追加し、データ「1」を設定します。

```
キー：HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM\HyperV (*)
名前：EnableVMOffEvent
データ：1
```

(\*) 32bit OSの場合は"%Wow6432Node"の部分を除外してください。

3. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で「サービス」画面を表示し、以下のサービスを開始します。

PVMService

## ● クラスタ環境の場合

「現用系サーバ」で本手順を実施下さい。

### 1. 監視対象サービスの監視の停止

レジストリの変更を実施する前に、CLUSTERPROで監視対象サービスの監視の停止を実施してください。

1. [スタート] メニューから [すべてのプログラム(P)] - [CLUSTERPRO Server] - [タスクマネージャ] を開きます。
2. 「アプリケーション/ サービス名」で表示されている、PVMServiceの監視を停止します。停止するサービスを以下の方法で「非監視」に設定してください。  
(サービスを「非監視」に設定する方法)
  - 表示されているサービス名を右クリックします。
  - [監視停止] を選択し、「実行確認」画面で[OK] をクリックして監視を停止します。
  - このとき、監視対象サービスの[監視状態] が「非監視」 になることを確認してください。
3. 停止するサービスが「非監視」 に設定されたことを確認し、タスクマネージャを終了します。

### 2. レジストリデータの再設定

レジストリエディタを起動し、アップグレードする前に設定していたデータを再設定してください。

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で「サービス」画面を表示し、以下のサービスを停止します。

PVMService

2. レジストリエディタを起動し、レジストリを追加します。

例えば、アップグレードする前に、以下のレジストリにデータを設定していた場合、名前「EnableVMOffEvent」を追加し、データ「1」を設定します。

```
キー：HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM\HyperV (*)
名前：EnableVMOffEvent
データ：1
```

(\*) 32bit OSの場合は"%Wow6432Node"の部分を除外してください。

3. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で「サービス」画面を表示し、以下のサービスを開始します。

PVMService

### 3. 監視対象サービスの監視の再開

レジストリの変更が完了した後に、CLUSTERPROで監視対象サービスの監視の再開を実施してください。

1. [スタート] メニューから [すべてのプログラム(P)] - [CLUSTERPRO Server] - [タスクマネージャ] を開きます。

ジャ]を開きます。

2. 「アプリケーション/ サービス名」で表示されている、PVMServiceの監視を開始します。開始するサービスを以下の方法で"監視中" に設定してください。  
(サービスを"監視中" に設定する方法)
  - 表示されているサービス名を右クリックします。
  - [監視再開] を選択し、「実行確認」画面で[OK] をクリックして監視を開始します。
  - このとき、監視対象サービスの[監視状態] が"監視中" に変わることを確認してください。
3. 開始するサービスが"監視中" に設定されたことを確認し、タスクマネージャを終了します。

#### [各レジストリの説明、影響範囲]

各レジストリデータの説明、およびSigmaSystemCenterのアップグレード後にレジストリデータが削除されることによる影響範囲は以下の通りです。

- キー: HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM\HyperV (\*)  
名前: EnableVMOffEvent  
<説明>  
クラスタ環境にVMオフを検出するイベントが有効か、無効かを指定します。  
無効の場合、クラスタ環境のVMオフが発生したとき、ユーザに通報しません。  
0: イベントを無効にします(既定値)。  
1: イベントを有効にします。  
<影響範囲>  
上記のレジストリに「有効」(1)が設定されていた場合、アップグレード後にレジストリが無くなることにより、既定値(0)で実行され、クラスタ環境のVMオフが発生したとき、ユーザに通報されなくなります。
- キー: HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM\HyperV (\*)  
名前: FreeSpaceThreshold  
<説明>  
ディスク空き容量と比較して、閾値を超した場合に、ディスク空き容量不足の通報を行います。  
ディスク容量の空き領域の閾値をレジストリにより変更できます。  
2048: 既定値  
2048以外の値: 閾値(単位:MB)を指定します。  
<影響範囲>  
上記のレジストリに既定値(2048)以外の値が設定されていた場合、アップグレード後にレジストリが無くなることにより、閾値に既定値(2048)が使用され、予期しない動きとなります。
- キー: HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM\HyperV (\*)  
名前: DiskUsageThreshold  
<説明>  
ディスク使用率と比較して、閾値を超した場合に、ディスク使用率超過の通報を行います。  
ディスク使用率の閾値をレジストリにより変更できます。  
75: 既定値  
75以外の値: 使用率(パーセント)を指定します。  
<影響範囲>  
上記のレジストリに既定値(75)以外の値が設定されていた場合、アップグレード後にレジストリが無くなることにより、閾値に既定値(75)が使用され、予期しない動きとなります。
- キー: HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM\HyperV (\*)  
名前: DisableDiskUsageMonitor

<説明>

クラスタディスクに関して、容量や状態やリソースなどを変更した場合、監視有効の設定より通報を行えます。

Hyper-V クラスタ管理対象について、ディスク容量を監視するかどうかを変更できます。

0 : 監視有効(既定値)

1 : 監視無効

<影響範囲>

上記のレジストリに1が設定されていた場合、アップグレード後にレジストリが無くなることにより、0(既定値)で実行され、監視有効の設定より通報が行われるようになります。

- キー : HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM\HyperV (\*)

名前 : MigrateTimeout

<説明>

仮想マシン移動操作のタイムアウトを、以下のレジストリ値で変更できます。

大きなタイムアウトを設定することにより、仮想マシン移動操作の時間を増やすことができます。

300 : 既定値

300以外の値 : 移動のタイムアウト(秒)を指定します。

<影響範囲>

上記のレジストリに既定値(300)以外の値が設定されていた場合、アップグレード後にレジストリが無くなることにより、仮想マシン移動操作のタイムアウトが300(既定値)で実行され、予期しない動きとなります。

- キー : HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\DPMPProvider (\*)

名前 : DelimiterWwn

<説明>

ローカルスクリプト、またはアプリケーション/パッチのコマンドオプションにて使用する予約変数

PVM\_HBA\_WWN\_n\_m、\$:HBA\_WWN\_n\_mに設定されるHBAのアドレスでアドレスの区切り文字を削除するか、削除しないかを指定します。

0 : 区切り文字を削除します(既定値)。

1 : 区切り文字を削除しません。

<影響範囲>

上記レジストリに1が設定されていた場合、アップグレード後にレジストリが無くなることにより、予約変数 PVM\_HBA\_WWN\_n\_m、\$:HBA\_WWN\_n\_mに設定されるHBAのアドレスは区切り文字が削除されます。

例)

アドレス: AAAA-BBBB-CCCC-DDDDの場合、値はAAAABBBBCCCCDDDDとなります。

- キー : HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM\VMware (\*)

名前 : EnableIPSetting

<説明>

ESXiのプロビジョニング時にvCenter ServerにIPアドレスで登録する場合に指定します。

0 : FQDNで登録します。(既定値)

1 : IPアドレスで登録します。

<影響範囲>

上記のレジストリに1が設定されていた場合、アップグレード後にレジストリが無くなることにより、ESXiプロビジョニングでvCenter Server にFQDNで登録されます。

- キー : HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM\VMware (\*)

名前 : SysprepWaitCount

<説明>

仮想マシンの作成時に個性反映後に一定時間待ち合わせる場合に指定します。

レジストリ EnableWaitForSysprep が 0 以外の場合に有効になります。

既定では待ち合わせません。

固定IPアドレスの場合： 指定値×20秒(レジストリ SysprepWaitFixedIPTimeout で変更可能)

DHCPの場合： 指定値×60秒 (レジストリ SysprepWaitDHCPTimeout で変更可能)

<影響範囲>

上記のレジストリを設定していた場合に、アップグレード後にレジストリが無くなることにより、個性反映後に待ち合わせを行わず個性反映が正常に行われられない可能性があります。

- キー：HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM\VMware (\*)

名前：CreateReplicaTimeout

<説明>

Differential Clone, Disk Clone のテンプレートから仮想マシンを作成するときのレプリカVMの作成処理のタイムアウト時間を指定します。

<影響範囲>

上記のレジストリに既定値(3600)以外の値を設定していた場合に、アップグレード後にレジストリが無くなることにより、レプリカVMの作成処理は1時間でタイムアウトが発生し、仮想マシンの作成処理がエラーになります。

- キー：HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM\VMware (\*)

名前：BeforeForcePowerOffTimeout

<説明>

仮想マシンの再起動時に行うシャットダウンの待ち合わせ時間を指定します。

<影響範囲>

上記のレジストリに既定値(300)以外の値を設定していた場合に、アップグレード後にレジストリが無くなることにより、仮想マシンのシャットダウンに時間を要する場合にタイムアウトが発生し、再起動操作がエラーになります。

- キー：HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM\VMware (\*)

名前：DisableVMServerTimeout

<説明>

フェイルオーバー時はESXiの接続状態が接続以外になる必要があります。

ESXiを接続以外の状態になるまで待ち合わせ、接続状態以外にならなかった場合に切断するまでの時間を指定します。

<影響範囲>

上記のレジストリに既定値(600)以外の値を設定していた場合に、アップグレード後にレジストリが無くなることにより、ESXiが接続状態のままフェイルオーバーを行うため、フェイルオーバーが失敗する可能性があります。

- キー：HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM\VMware (\*)

名前：EnableCheckPowerStatus

<説明>

仮想マシンを起動状態でVM編集が可能かどうかを指定します。

0：不可

1：可能(既定値)

<影響範囲>

上記のレジストリに0を値を設定していた場合に、アップグレード後にレジストリが無くなることにより、仮想マシンの起動状態でVM編集をガードできません。

- キー：HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM

\\VMware (\*)

名前: EnableDefaultVmPortgroup

<説明>

ESXプロビジョニング時に既定のポートグループを作成するかどうかを指定します。

0: 作成しない。(既定値)

1: 作成する。

<影響範囲>

上記のレジストリに1を設定していた場合に、アップグレード後にレジストリが無くなることにより、ESXiプロビジョニング時に既定のポートグループが作成されません。

- キー: HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM\\VMware (\*)

名前: IgnoreIpWaitTimeout

<説明>

仮想マシンの起動時にIPアドレスが割り当たらなかった場合にエラーにするかどうかを指定します。

0: エラーにする。

1: 警告にする。(既定値)

<影響範囲>

上記のレジストリに0を設定していた場合に、アップグレード後にレジストリが無くなることにより、仮想マシンの起動時にIPアドレスが割り当たらなかった場合にエラーになりません。

- キー: HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM\\VMware (\*)

名前: IpSettingGuestWatchTimeout

<説明>

仮想マシンの起動時にIPアドレスが割り当たるまで待ち合わせる時間を指定します。

<影響範囲>

上記のレジストリに既定値(180)以外の値を設定していた場合に、アップグレード後にレジストリが無くなることにより、指定した時間中にIPアドレスが割り当たらなかった場合に警告またはエラーが発生します。

- キー: HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM\\VMware (\*)

名前: SysprepWaitDHCPTimeout

<説明>

仮想マシンの作成時に個性反映後に一定時間待ち合わせる場合に指定します。

レジストリ EnableWaitForSysprep が 0 以外の場合に有効になります。

仮想マシンがDHCP設定の場合に使用されます。

<影響範囲>

上記のレジストリに既定値(60)以外の値を設定していた場合に、アップグレード後にレジストリが無くなることにより、個性反映後に待ち合わせを行わず個性反映が正常に行われない可能性があります。

- キー: HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM\\VMware (\*)

名前: SysprepWaitFixedIPTimeout

<説明>

仮想マシンの作成時に個性反映後に一定時間待ち合わせる場合に指定します。

レジストリ EnableWaitForSysprep が 0 以外の場合に有効になります。

仮想マシンが固定IPアドレス設定の場合に使用されます。

<影響範囲>

上記のレジストリに既定値(20)以外の値を設定していた場合に、アップグレード後にレジストリが無くなることにより、個性反映後に待ち合わせを行わず個性反映が正常に行われない可能性があります。

- キー: HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM

\\VMware (\*)

名前: VmPowerOffTimeout

<説明>

ESXiのシャットダウン時にESXi上にある仮想マシンの強制OFFのタイムアウト時間を指定します。

<影響範囲>

上記のレジストリに既定値(2)以外の値を設定していた場合に、アップグレード後にレジストリが無くなることにより、ESXiのシャットダウン時に仮想マシンが正常に電源OFFしない場合があります。

- キー: HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM\\VMware (\*)

名前: VmShutdownTimeout

<説明>

ESXiのシャットダウン時にESXi上にある仮想マシンのシャットダウンのタイムアウト時間を指定します。

<影響範囲>

上記のレジストリに既定値(10)以外の値を設定していた場合に、アップグレード後にレジストリが無くなることにより、ESXiのシャットダウン時に仮想マシンが正常に電源OFFしない場合があります。

- キー: HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM\\VMware (\*)

名前: WaitAfterReboot

<説明>

仮想マシンの再起動時に操作を完了する前に待ち合わせる時間を指定します。

<影響範囲>

上記のレジストリに既定値(0)以外の値を設定していた場合に、アップグレード後にレジストリが無くなることにより、仮想マシンの再起動でゲストOSの起動が完了していない可能性があります。

- キー: HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM\\VMware (\*)

名前: WaitBeforePowerOnTask

<説明>

仮想マシンの再起動時に行う起動前の待ち合わせ時間を指定します。

<影響範囲>

上記のレジストリに既定値(10)以外の値を設定していた場合に、アップグレード後にレジストリが無くなることにより、仮想マシンの起動処理がエラーになる可能性があります。

- キー: HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM\\VMware (\*)

名前: WaitForRetryPowerOn

<説明>

仮想マシンの起動がファイルロックエラーで失敗した場合に起動処理をリトライするまでの待ち合わせ時間を指定します。

<影響範囲>

上記のレジストリに既定値(1)以外の値を設定していた場合に、アップグレード後にレジストリが無くなることにより、待ち合わせ時間が短い場合にリトライの起動処理でもファイルロックエラーが発生する可能性があります。

(\*) 32bit OSの場合は"\\Wow6432Node"の部分を除外してください。

## 【参考情報】

下記インストレーションガイドの「5. トラブルシューティング」の説明も参照してください。

- WebSAM SigmaSystemCenter 3.3 インストレーションガイド 第1版

[http://jpn.nec.com/websam/sigmasystemcenter/download/3\\_3/InstallationGuide\\_33-1.pdf](http://jpn.nec.com/websam/sigmasystemcenter/download/3_3/InstallationGuide_33-1.pdf)

- WebSAM SigmaSystemCenter 3.3 インストレーションガイド 第2版

[http://jpn.nec.com/websam/sigmasystemcenter/download/3\\_3/InstallationGuide\\_33-2.pdf](http://jpn.nec.com/websam/sigmasystemcenter/download/3_3/InstallationGuide_33-2.pdf)